QI活動報告

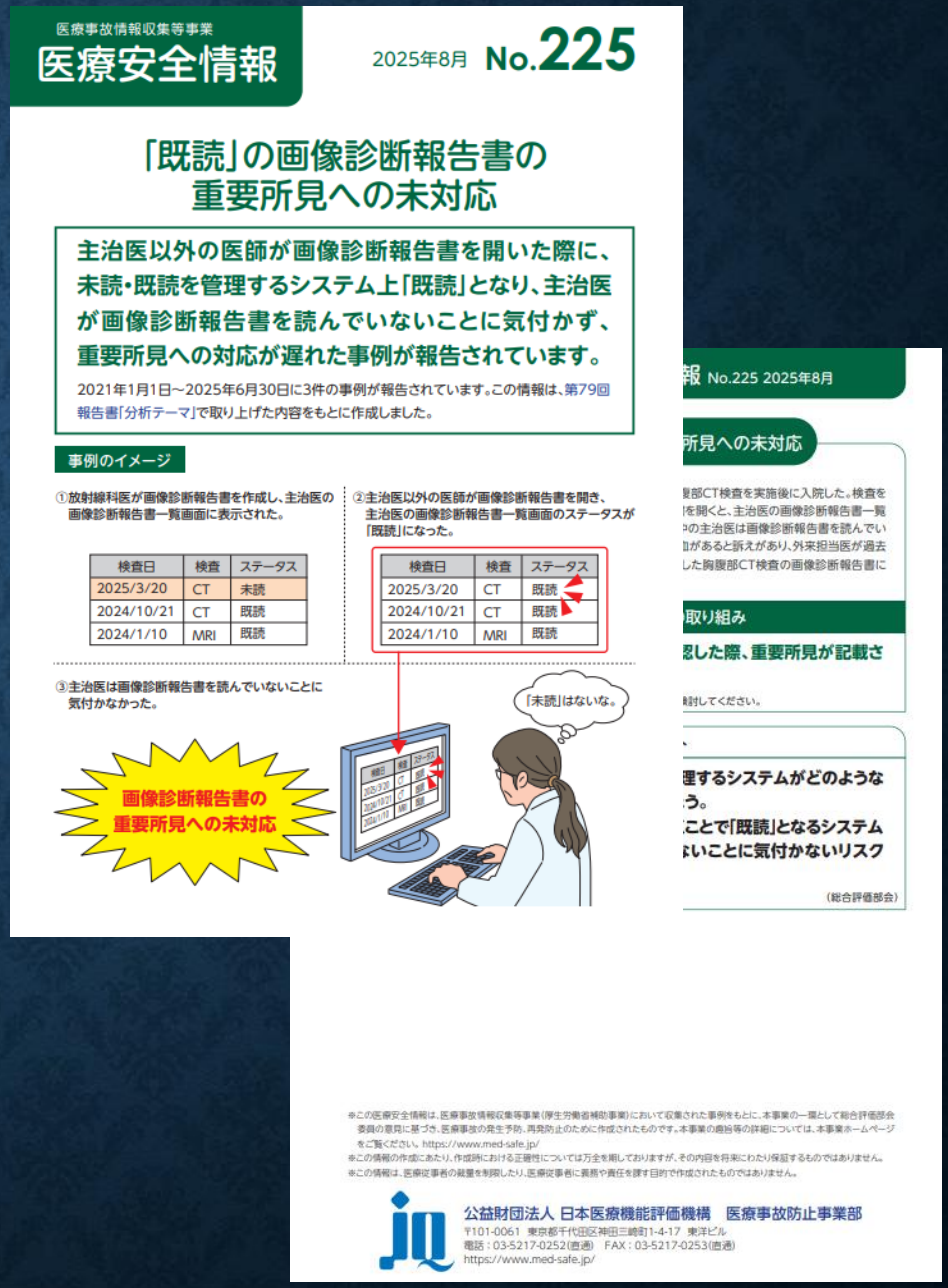
2025年度

病理報告書の既読率向上と予期せぬ所見への対応

病理診断科

はじめに

病理診断報告を含む画像診断報告書の対応は当院の重点的QIに掲げられております。



医療事故情報収集等事業
医療安全情報
2025年8月 No.225

「既読」の画像診断報告書の重要所見への未対応

主治医以外の医師が画像診断報告書を開いた際に、未読・既読を管理するシステム上「既読」となり、主治医が画像診断報告書を読んでいないことに気付かず、重要所見への対応が遅れた事例が報告されています。

2021年1月1日～2025年6月30日に3件の事例が報告されています。この情報は、第79回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

事例のイメージ

①放射線科医が画像診断報告書を作成し、主治医の画像診断報告書一覧画面に表示された。

検査日	検査	ステータス
2025/3/20	CT	未読
2024/10/21	CT	既読
2024/1/10	MRI	既読

②主治医以外の医師が画像診断報告書を開き、主治医の画像診断報告書一覧画面のステータスが「既読」になった。

検査日	検査	ステータス
2025/3/20	CT	既読
2024/10/21	CT	既読
2024/1/10	MRI	既読

③主治医は画像診断報告書を読んでいないことに気付かなかった。

画像診断報告書の重要所見への未対応

「未読」はないな。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。https://www.med-safe.jp/
※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
https://www.med-safe.jp/

DEPARTMENT OF DIAGNOSTIC PATHOLOGY
TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY ADACHI MEDICAL CENTER

2024年度の報告

組織診断報告書　全件既読　2025.4.21確認

細胞診断報告書　全件既読　2025.8.15確認

DEPARTMENT OF DIAGNOSTIC
PATHOLOGY
TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY
ADACHI MEDICAL CENTER

2025年度現状報告

組織診断報告書　2025.8月診断分まで既読確認

細胞診断報告書　2025.4月診断分まで既読確認

未読残件数　5月分　6件　　6月分　3件

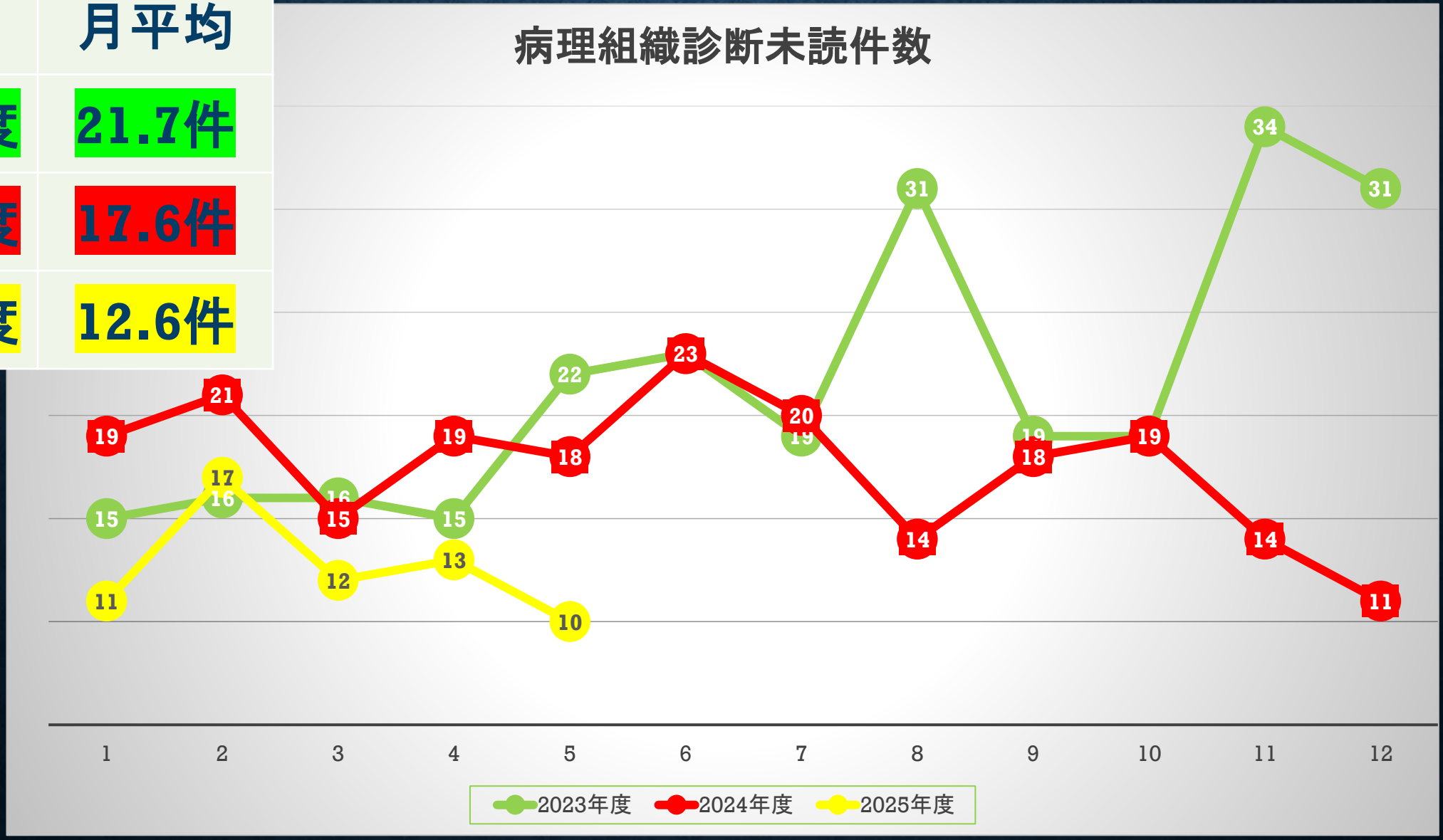
7月分　29件　　8月分　60件

（2025.9.30現在）

DEPARTMENT OF DIAGNOSTIC PATHOLOGY
TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY ADACHI MEDICAL CENTER

病理組織診断報告書未読対応件数

	月平均
2023年度	21.7件
2024年度	17.6件
2025年度	12.6件



細胞診断報告書

2015年度から陽性例のみ対応を行っていた。
→診断・治療目的に行われて、ただちに臨床的対応が必要な症例

2023年度から陽性例と入院患者分について対応を行う。
→入院中に陽性・陰性が確認することは臨床的に価値がある。

理解を得られ組織診と同等の既読管理が行えた。

2024年度から全件対応を行う。
→残る外来陰性例について。
・件数が多い
・対応リストにも陰性例と明記されており対応を急ぐ必要がなく、
次回外来時に確認をしても臨床的対応は可能と判断できる。

Negative factorが存在する中、臨床各科の既読へ重要性の認識が高まり既読率が向上している。

DEPARTMENT OF DIAGNOSTIC PATHOLOGY
TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY ADACHI MEDICAL CENTER

まとめ＆今後の課題

病理組織診断報告書
未読分の対応件数が減少傾向にあり、改善が認められた。

細胞診断報告書
2024年度から未着手だった外来陰性分の報告書既読向上への取り組みを始め、2025年８月15日に全件既読となったことを確認しました。

・病院全体で報告書の既読対応へ取り組みが浸透しつつあり、既読までの期間短縮が認められます。

・次年度までには画像診断既読管理で導入されておりますCITAの導入が決定されており更なる適正管理に向けて活動していく。